

2010年12月15日

**電通総研、10-20代の生活意識を研究するプロジェクト
 若者問題研究所＝「電通ワカモン」を発足、第一弾として高校生調査を実施**

高校生アンケート2010

**ゆとり教育世代は将来意識強く、後悔しないよう先回り発想
 ～「将来の就職が不安」80%、なりたい職業1位は「公務員」～**

電通総研では、今の10～20代を取り巻くさまざまな環境や社会問題を分析し、若者のリアルに迫る研究プロジェクト『若者問題研究所（略称：電通ワカモン）』を立ち上げました。

当研究所の設立主旨は、若者の抱えている問題から目をそらさず、それを時代のせいだけでもせず、彼ら自身が問題を克服していくために、企業・社会がサポートできることは何かを追求していくことにあります。今後「若者の世代背景」「若者のコミュニケーション特性」「若者がメディア・コンテンツに求めるもの」に関する研究成果を動画レポート等で公表していく予定です。

このたび、プロジェクトの第一弾として、2010年9月に高校生対象のアンケート調査を実施しました。今回はトピックスの一部をご紹介します。

■高校生のなりたい職業1位は「公務員」

高校生の将来なりたい職業は「公務員」「大企業の正社員」「介護士・保育士・看護師」。安定した収入が得られる職業につきたいという意見が、高校生の半数を占めました。義務教育のころからキャリア教育を受けてきた今の高校生は、早くから「社会や景気のこと」や「自分に合った適職」を意識しているのかもしれません。

Q. 将来、どんな職業につきたい、または、どんな生き方をしたいですか？

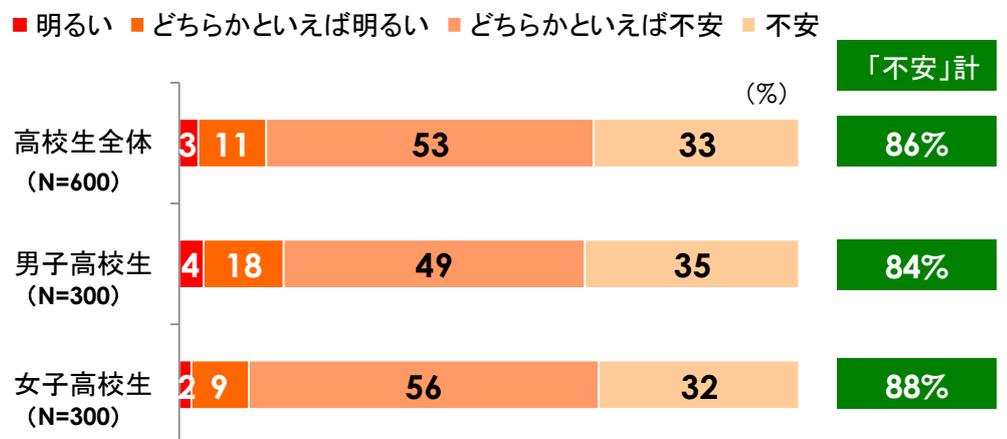
1つだけお答えください（高校生 N=600）

1位	公務員	20%
2位	大企業の正社員	19%
3位	介護士・保育士・看護師	11%

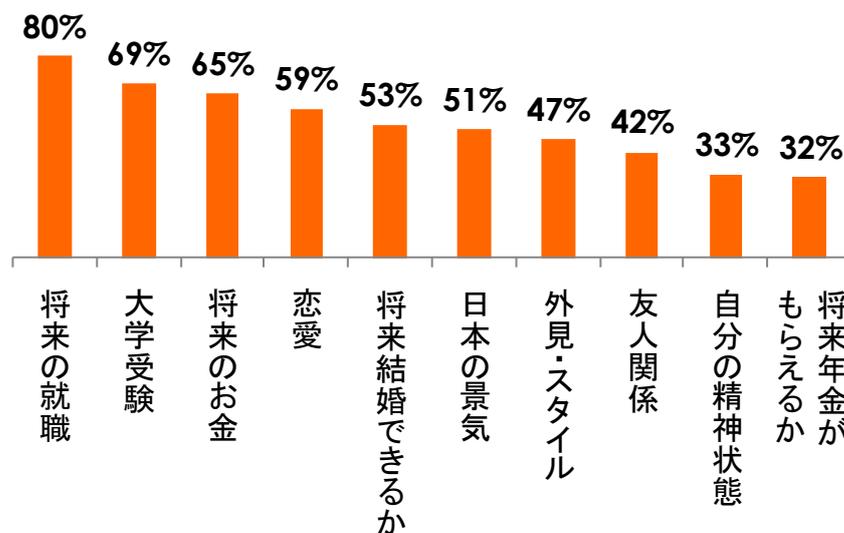
■ 高校生のいちばん不安なことは「将来の就職」80%

高校生の「日本の将来が不安」と思う割合は86%。不安要素は「日本の景気」51%、「年金」32%と、日本の未来に無関心というわけではありません。また、高校生の不安に思うことの第一位は「将来の就職」（80%）。なんと「大学受験」（69%）より高く、目の前の悩みより、今から先回りで将来を心配しておくことで、心の準備をしておこうとする慎重志向が現れています。

Q. 日本の将来をどう思いますか？



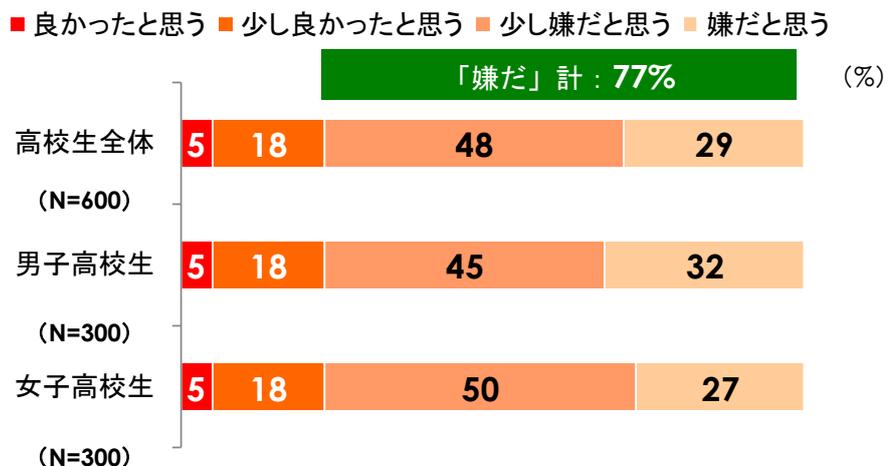
Q. 不安に思うこと (高校生 N=600)



■高校生、「ゆとりといわれるのは嫌」77%、理由は「バカにされているみたいだから」

いまの高校生(1992~1995年生まれ)は、小学校の頃からゆとり教育を受けて育った世代です。しかし、多くの高校生が「ゆとり世代といわれるのは嫌だ」(77%)と答えています。その理由は「馬鹿にされているみたいだから」「将来を考えると不安」が多数を占め、今時間のゆとりがあることよりも、彼らの将来にゆとり教育がどう影響するかを気にしているようです。

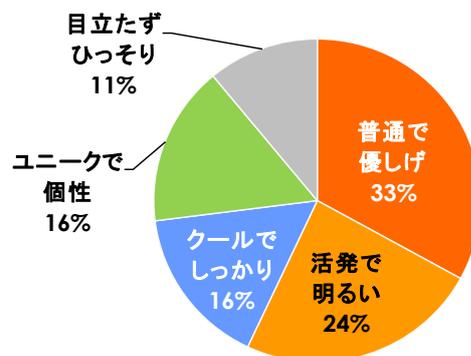
Q. 「ゆとり教育を受けた世代」といわれることをどう思いますか？



■ 高校生「その場に合うキャラを意識する」83%

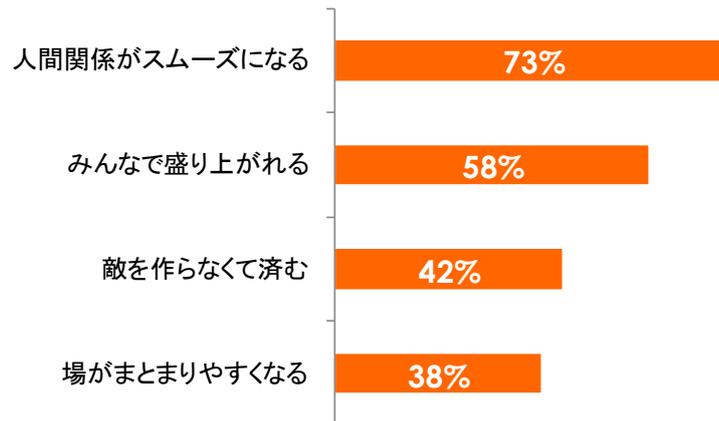
高校生の「場の空気に合わせてふるまう」率は96%と、「空気を読む」のはもはや常識となっています。また、ふだんの自分のキャラクター（以下、キャラ）として、3人に1人が「普通」であることを意識しながらも、「その場に合うキャラを意識することがある」と83%が答えています。場面にあわせてふだんとは違うキャラを使い分けて接することは、高校生にとって「空気を読む」手段の1つとなっているようです。

Q. あなたのふだんのキャラは？ (高校生 N=600)



また、キャラを変える理由は、「人間関係がスムーズになる」73%、「みんなで盛り上がる」58%など、周りと同調する『シンクロ』ではなく、キャラを生かし合う『シナジー（相乗効果）』が意識されています。

Q. キャラを変える理由（高校生 N=495 ※「ふだんと異なるキャラを意識することがある」人が回答対象）



ちなみに、女子高生の「自分はオタクだと思う」率は58%で男子（51%）より高く、さらに「学校やカラオケで、振り付きで踊れる曲」を平均3.7曲もっており、4人に1人が「(サンタや他校制服含め)コスプレ衣装を所有している」など、女子のほうがオタクキャラや、場を盛り上げる個性的なキャラが浸透していることがわかりました。

○まとめ

先回りで将来を心配し、今から心の準備をしようとする今の高校生は、ゆとり教育世代でありながらも、実際には心のゆとりがあまりないようです。場の空気を読み、失敗しないよう堅実な生き方を心がけています。しかし、彼らはただ大人しくしているわけではありません。場に合わせて個性あるキャラクターを演出し、仲間とシナジーして盛り上がろうとする行動がみられます。周りから浮かないよう横並び意識をもちながらも、同時に自分の場所をつくらうとする『個性（キャラ）重視』の意識が強いことがあきらかになりました。

【調査の概要】

高校生調査

- ・調査対象：全国の高校生男女600名
- ・調査時期：平成22年9月16日（木）～9月20日（月）
- ・調査手法：モバイルインターネットパネル調査
- ・調査実施機関：電通リサーチ

<リリースに関するお問い合わせ>

電通コーポレート・コミュニケーション局広報部 市川、林田 Tel 03-6216-8041

<内容に関するお問い合わせ>



電通総研 ヒューマン・インサイト部 若者問題研究所（電通ワカモン） 田中、西井 Tel03-6216-8458